



ふるぼう知生の

「古ちゃん'S レポート」 第 14 号

こんにちは。いつもお世話になっております。日頃のご指導・ご鞭撻に心より感謝申し上げます。

9月24日にスタートした豊島区議会第三定例会も10月29日に全日程を終了しました。そこで今定例会の審議の様子を皆様にご報告すべく第14号を書きました。ご一読いただければ幸いです。

今回の定例会では私が委員を務めた決算特別委員会がありました。毎日大勢の理事者と向き合いながら7日間議論を戦わせました。一人会派ですので使える時間は11分と大変短いのですが、魂をこめて質問をしたつもりです。質問の内容については以下に記します。最終日には「意見開陳」ということで、自分の意見を表明する場もあり、終了後、区長や議長からも「立派な内容だった」とお褒めの言葉をいただきました。内容は一言で言うと、「理想的な家庭、支え合う地域、誇りある国家、持続可能な地球」です。

保守を自認する私は理想を高く掲げ、その理想に向かってあるべき区政を訴えています。大きな志と理念を訴えなければ、政治家になった意味がありません。これからも皆様のご意見を参考にしながら、志を高く持って、皆様のために発言してまいります。

平成22年 11月1日

豊島区議会議員 古坊 知生

意見開陳を行いました。(10月26日)



【決算特別委員会 質問内容】

《初日～総括質疑》

・ 地方分権の時代を見据えた豊島区の身の丈に合った財政の定義は？

今後地方分権の時代になれば、国や東京都から財源や人材が下りてくるようになる、仕事とお金と人を移譲されるわけだが、職員の新定員管理計画との整合性はどうなるのか。

《第2日～議会費・総務費》

- 男女共同参画社会が本来行くべき方向に進んでいない。

家庭内暴力やセクシャルハラスメントのような犯罪を厳しく罰するのは当然のことだが、男女の性の違いによる役割分担を否定する方向性に話が進んでいる。女性の持っている母性という素晴らしさを活かし、男女の性の違いをしっかりと認識したうえで補い合い、支え合う真の男女共同参画社会を目指すべき。

- 特に20代を中心とする若い世代の投票率を上げる工夫をすべき。

20代を中心とする若い世代が選挙に関心をもち、投票に行ってもらうために、期日前投票の立会人や開票作業のアルバイトなど若者が積極的に選挙に参画できる工夫をしてもらいたい。

《第3日～福祉費・衛生費》

- 高齢者見守り運動が高齢者の方々によってなされている現状の克服。

町会、高齢者クラブ、民生委員の方々により高齢者の見守り運動が行われている。そのご労苦に心から敬意を表したい。しかし仕事の内容が非常にハードであり、またかなり高齢の方が多いので、次を担う人材を発掘する努力が必要である。自分たちの地域を守ることにより、結局自分たちが守られるというメッセージを発信してもらいたい。

- 核家族化した昨今の家庭のサポートの充実を希望する。

「こんにちは赤ちゃん事業経費」や「育児支援家庭訪問事業経費」など昨今の家庭は核家族化しているので、子育てするお母さん方の精神的不安の解消が必要である。そのために行われているこの事業の更なる継続と充実を要望する。

《第4日～清掃環境費・都市整備費・土木費》

- 自転車専用道路を拡張すべき。

交通弱者を守るというためにも自動車道路、自転車専用道路、歩道に分けて使用するのが一般的な考え方である。フランスでは歴史的建造物も多いが、自転車専用道路を12年間で50倍の距離に拡張した。要は意識の問題である。今までの道路も勿論であるが、最低でもこれから新規でつくる道路については自転車専用道路を作っていくべきである。

- 見えないCO2を見える化して、具体的な行動をとる施策が必要。

CO2排出量削減目標値が豊島区にもある。持続可能な地球を目指すためにCO2排出量削減は何よりも優先的な課題である。その意識の啓蒙と、最近開発されたソフトを活用して、見えないCO2を見える化し、具体的な行動をとるように積極的に促してほしい。

《第5日～文化商工費・教育費》

- 愛国心教育について

歴史の教科書を採択する際にどのような基準で選択するのか。教育基本法の改正により、愛国

心を養うことも大きなテーマになっている。自虐史観といわれるような歴史教科書ではなく、生まれ育った日本の歴史や文化伝統を、誇りを持って語れる子供に成長してもらうために、歴史の教科書の採択においてはそのような視点も盛り込んでほしい。

・ 性教育について

中学時代においては生徒も非常に多感な時期であり、特に性教育も非常に難しいテーマであると思う。行き過ぎた性教育を施すことなく、教師の言葉の重みをしっかり認識して対応してほしい。

《第6日～一般会計全部の補足質疑、5特別会計質疑》

・ 医療費の削減について

2008年からメタボ健診とジェネリック医薬品の推進が医療費削減の有効な手段として開始された。本当にそうになっているのかどうか。メタボ健診において受診勧奨率が高ければ結果としてお医者さんに行く方が増加し、医療費が増加することにもなる。ジェネリック医薬品については確かに安いという魅力はあるが、果たして効能や安全性において前の薬と変わらないものなのかどうか。しっかりと見極めていく必要がある。

《第7日～全部の補足質疑》

・ 古くからある文化財と新しい文化の発掘について。

古くからある文化財の更なる発掘はもちろんだが、これから価値が見いだされるもの、また地域の人にしか分からない価値という基準もあると思う。そのような基準についても検討をしてもらい、新しい豊島区の魅力を更に見出していくべきである。また例えば「おおつか音楽祭」や「都電沿線のバラ事業」等、新しく芽生えている文化に対しても更なるご支援を賜りたい。

《第8日～意見開陳・採決》



※意見開陳はホームページに全文を掲載しています。また議会の動画中継も視聴できます。

<http://furubou.com>

<http://113.42.218.61/Toshimaku>



今年の11月から公費助成がスタートする子宮頸がんワクチン、絵はイギリスのグラクソ・スミスクライン社製造、サーバリックス

最終日の本会議で反対討論をしました。補正予算案第2号について大方の内容は納得いくものでありましたが、子宮頸がんワクチンの公費助成に対する予算付けがされていたからです。私は第二回定例議会の時も35名が賛成する中、一人だけ子宮頸がんワクチンの公費助成反対の立場を表明しました。以下に理由を述べて皆様の問題提起をしたいと思えます。

第一に、子宮頸がんの原因自体がまだ本当の意味で解明されていないということです。多くの場合はヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスが感染することにより発症するものであるとわかってきていますが、その割合も数字的に根拠を示すものはありません。

第二に、仮に子宮頸がんがこのHPVによる原因の確立が高いものであるとしても、この新しいワクチンは100種類もあるHPVの2種類にしか効能はありません。日本人の場合はこの2種類のウイルスを保持している人の割合が欧米より比較的少ないといわれていて、およそ50%から60%しか効能がないといわれています。

第三に、このワクチンを推奨する団体は、女性の80%以上の人がこのウイルスに感染するのでワクチンを接種すべきであると主張していますが、感染してもウイルスの90%は自然に消滅するようになっています。ですからウイルスに感染してから死に至る確率は0.1%と極めて低い数字です。数字だけを見れば優先すべきがん対策は他にも多くあります。

第四に、このHPVは多くが性交によって感染するものです。即ち性感染症というのが本当のところ。ゆえに性交を開始する年齢が幼くなったり、不特定多数の異性と性交を持ったりするとその分だけ子宮頸がんにかかる確率が高くなるのです。最近子宮頸がんにかかる年代が20代や30代に多くなってきているということは性交の時期の低年齢化と性道德の乱れが原因であると言えます。（もちろんそうでなくても子宮頸がんにかかる方もいらっしゃいます。）そうであれば、ワクチンを打てば子宮頸がんにかからないと思ひ、ますます倫理的にあるいは性道德的に乱れる可能性があると思ひます。

以上の観点から私は、女性の定期検診を若いうちから義務化させることによって、仮に感染していたとしても早期に子宮頸がんの前期の段階で発見でき、治療することができるわけですから、なにもワクチンを計3回、一人につき5万円というお金を税金で払ってワクチンを投与する必要は全くないと思ひます。私はむしろ、まだ科学的には立証されていませんが、アジュバンドというマウスの避妊薬にも使われている成分がこのワクチンに含まれており、効能についてもどれほど効果があるのか分からないと製薬会社が認めているようなワクチンを、性についてほとんど知識のない中学生に接種させようとするの意味が理解できないのです。親も先生も説明に困るはず。私の取り越し苦労であればよいのですが、子供たちの未来がかかっていることですから、危機感が使命感に代わり反対をしました。皆様はどうお考えでしょうか？